

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

この科目は、保育実習Ⅱ（施設）のための必修科目である。多様な種類の児童福祉施設等で実習を行うために必要な基礎知識を講義する。事前指導では、施設における実習の目的や内容、実習を行う上での心構えやマナーをはじめ、施設の種別ごとに、その概要を指導する。施設の種別は、幅が広いので、共通する知識の講義とともに、必要に応じて、施設の種別ごとにクラスを分けて授業を行う。

障害児等の支援を必要とする児童の相談・指導を行っている筑波大学心理・障害教育相談室及び筑西児童相談所における実務経験に基づいて、施設利用児者の特性理解及び支援方法について詳しく講義する。

事後指導では、施設実習での学びを振り返り、その後の課題を自覚できるように指導する。

授業計画

| | |
|--------|--------------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 施設実習の基礎知識（目的、内容、課題） |
| 第 3 回 | 実習日誌の書き方①（書き方の解説） |
| 第 4 回 | 実習日誌の書き方②（模擬日誌の作成） |
| 第 5 回 | 実習日誌の書き方③（模擬日誌の教員による添削） |
| 第 6 回 | 実習日誌の書き方④（模擬日誌の学生同士の相互評価による添削） |
| 第 7 回 | 児童福祉法・障害者総合支援法 |
| 第 8 回 | 施設の種別の理解 |
| 第 9 回 | 施設実習の実際について |
| 第 10 回 | 施設利用児者の特性理解及び支援方法について |
| 第 11 回 | 養護系施設について |
| 第 12 回 | 障害系施設について |
| 第 13 回 | 実習直前指導 |
| 第 14 回 | 施設実習の反省と評価 |
| 第 15 回 | 施設実習のまとめと今後の課題 |
| 第 16 回 | 総まとめ |

到達目標

社会福祉施設に実習に行き、有意義な実習を行い、その後の学びに結びつけること。

履修上の注意

欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず連絡をすること。連絡がない場合、配布物など受け取れないことがある。課題は必ず提出すること。

外部講師を招へいして授業を行う場合がある。

予習・復習

授業ごとに実習先施設に関する資料の配布や連絡などを行うので、1回でも欠席すると実習に支障をきたすので留意すること。実習に際しては、実習先に迷惑をかけることがあってはならないので、この点を十分に理解して授業に臨むこと。

課題が多いので、その週のうちに勉強し、翌週必ず提出すること。

評価方法

授業態度 10%、課題の提出状況 30%と内容 60% を基準に総合的に判断して評価する。

テキスト

- 『より深く理解できる施設実習—施設種別の計画と記録の書き方』
著者名：藤京子（著）、中島健一郎（著）、増南太志（著）、松本峰雄（監修）
出版社名：萌文書林・出版年（ISBN）：2020年に改訂版出版予定
- 『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』創成社